山鹿泰

初動面の印象

月頃だつたと記憶する。その時僕は十九歳だつた。(僕が大杉君と初めて會つたのは、幸徳等が殺された年の四

て、早速原田君特有の巧妙な宣傳が僕に始められた。 以後行衞をくらまさねばならなかつた、死んだ同志の原田新 以後行衞をくらまさねばならなかつた、死んだ同志の原田新 太郎君が遇然潜り込んで來た。そして僕と一所に仕事をする 太のて會社へ通つてゐた。その姿が彼の興味を引いたと見え で、早速原田君特有の巧妙な宣傳が僕に始められた。 で、早速原田君特有の巧妙な宣傳が僕に始められた。

してゐた相坂君も幸徳事件で入獄するし、それにキリストのの大杉君の名も識つてゐたし、又會員中でも特に僕と親密に實は僕もエスペラント協會の創立當時の幹事の一人として

といふ文字に出した。 を満な思想にはあきたらなくなつてゐたので、直ちに生命を 地して見たいと思つて、しきりに觸角を動かせてはゐたのだ。 しかし政府は極端な言論の壓迫をやつて『社會』といふ文字 さへ用ひさせない程であつたから、勿論社會主義の書物なぞ は一冊だつて見當らなかつた。そんな際であつたから、僕は は一冊だつて見當らなかつた。そんな際であつたから、僕は は一冊だつて見當らなかつた。そんな際であつたから、僕は は一冊だつて見當らなかつた。そんな際であつたから、僕は は一冊だつて見當らなかった。そんな際であつたから、僕は は一冊だって直ちに大杉へ面會所望のハガキをエスペラント で出した。

はまだ若くてドモリもはげしかつたが、邊りの人に遠慮なくつて待つてゐると縞のセピロで杉がやつて來た。その當時杉待合室で會はうと返事が來た。約束の日に原田君と三越へ行すると折返して同じくエス文で、來る何日に三越の三階の

大聲でドモリ散らした。何んでも話は『フランス革命の時にたのだから、決して同志の少數ないを心配することはないしたのだから、決して同志の少數ないを心配することはないしたのだから、決して同志の少數ないを心配することはないしたのだから、決して同志の少數ないを心配することはない」と云ふ事や、また『勞働組合の設立は日本ではまだ到底見込と云ふ事や、また『勞働組合の設立は日本ではまだ到底見込と云ふ事や、また『勞働組合の設立は日本ではまだ到底見込と云ふ事や、また『勞働組合の設立は日本ではまだ到底見込と云ふ事や、また『勞働組合の設立は日本ではまだ到底見込と云ふ事や、また『勞働組合の設立は日本ではまだ到底見込と云ふ事が急務だといふやうな話しだつた。時は幸德事件のといふ事が急務だといふやうな話しだつた。時は幸徳事件のといふ事が急務だといふやうな話しだつた。時は幸徳事件の名であつて、思想界は冱寒のやうた気にをでいませて、思想界は冱寒のやうな氣焰を聞いて、僕は溢れる程の感激に滿ちた。正義を愛する僕の青春の血潮は煮えれる程の感激に滿ちた。正義を愛する僕の青春の血潮は煮えれる程の感激に滿ちた。正義を愛する僕の青春の血潮は煮えれる程の感激に滿ちた。正義を愛する僕の青春の血潮は煮えれる程の感激に滿ちた。正義を愛する僕の青春の血潮は煮え

さうだから』と言つて尚しばらく方々を捜してゐたが、アベが貰へないんだから必要のない時はマカない方がいゝ、可哀た方がいゝだらうと云ふと、『イヤ、彼等は一回見失ふと日給た方がいゝだらうと云ふと、『イヤ、彼等は一回見失ふと日給た別、と言つてしきりに捜してゐるので、『スパイなんかマイクだ』と言つてしきりに捜してゐるので、『スパイなんかマイクだ』と言いて、僕と杉とは後から三越話がすむと原田君は先きに歸つて、僕と杉とは後から三越

杉のこの英雄的行爲にも少なからず感心させられた。コベにこちらがマカれたものか遂に見當らなかつた。僕は大

それから外藻を歩きながら八重州橋を渡つて丸の内へ入るを否定する氣になれないが、アナキストで神を信じてゐる者はないか』と尋ねて見ると、彼は笑つて、『そんなものは一人もないだらう』と言つてその理由を話してくれた。結局僕は神といふ無形の偶像と共に、××といふ生きた偶像の迷信が6僕自身を解放することが出來た。八重州橋は僕には紀念の場所だ。あそこから丸の内へ歩を運んだ時の氣持はまだ忘れ得ない。それから日比谷公園に入つて日暮れまでベンチにれ得ない。それから日比谷公園に入つて日暮れまでベンチにもたれて話を聞いて分れた。

良心に誓つた。

「というであった。孤灯の下に机に向つて僕は自分の中々やまないのであつた。孤灯の下に机に向つて僕は自分の中々やまないのであつたやうな强い今日の印象に心臓の動悸は僕は内幸町にあつたエスペラント協會に歸り自分の室に坐

德等十二人の同志よ、僕は誓つて社會革命の事業を繼承する。相互扶助、の理想社會の建設を終生の事業としやう。あゝ幸『これから俺はこの兇惡な社會制度の破壞と、自由、平等、

1

—*33* -

たのだ。よし、俺の一生を獻ぐべき主義はこれだ』と。る、幸德等 十二人の死は 幾萬の同志を 産むべき 種子であつる、幸徳等 十二人の死は 幾萬の同志を 産むべき 種子であつ政府の迫害何ものぞ、正義人道の前には如何なる暴力も强権

六 角 燈

字の本がつめ込んであつた。その本は警視廳が手を廻して大学の本がつめ込んであつた。その横の本棚にはギッシリ横文でぶかぶかと吹かしてゐる。その横の本棚にはギッシリ横文でぶかぶかと吹かしてゐる。その横の本棚にはギッシリ横文でぶかぶかと吹かしてゐる。その横の本棚にはギッシリ横でながぶかと吹かしてゐる。その横の本棚にはギッシリ横でががががかられ上つた坐蒲團の上にドツカリ乗つかつて、例の山羊質をくじりながらネヴイカツトの上等煙草をマドロスバイブでぶかぶかと吹かしてゐる。その横の本棚にはギッシリ横文でぶかぶかと吹かしてゐる。その本は警視廳が手を廻して大学の本がつめ込んであつた。その本は警視廳が手を廻して大学の本がつめ込んであつた。その本は警視廳が手を廻して大学の本がつめ込んであつた。その本は警視廳が手を廻して大学の本がつめ込んであつた。その本は警視廳が手を廻して大学の本がつめ込んであつた。その本は警視廳が手を廻して大学の本がつめ込んであつた。その本は警視廳が手を廻して大学の本がつめ込んであつた。その本は警視廊が手を廻して大学の本がつめ込んであった。

所となつた。
代物だつた。が、例の葉山事件で無残にも堀保子の差押へる取らうとしたが、大杉の一喝に逢つて驚いて退散したといふ取らうとしたが、大杉の一喝に逢つて驚いて退散したといふ阪の同志の中にまじつてゐたスパイから交渉して千圓で買ひ

まづいと言ひながら殆んど一人で平げてしまつた。愛憩よく出むかへてお鮨の御馳走をしてくれた。杉はまづい僕が始めて訪問した時には、保子夫人が若作りで出て來て

『近代思想』といふ文學的なものを出すと言つて來た。又讀い荒畑との連名で、大逆事件 以後 始めて 深い 眠りからさめて出して、大連へ渡つた。滿鐵の發電所で働いてゐると大杉とその後僕は京都の奥村電氣へ入つて職工になつたが、又飛

それで僕は急いで上海に渡つた。 民聲社は政府から追放されて上海に引越したと言つて來た。 民聲』を出してゐるといふ知らせがあつた。 僕はその方へ『民聲』を出してゐるといふ知らせがあつた。 僕はその方へ

合のいゝ會合の場所が一ケ所出來た。毎月二囘そこへ集つて

その頃、僕等には不似合な日本橋の眞ン中の常盤町に、都

同志等には再會を約して東京をさして急いだ。 同志等には再會を約して東京をさして急いだ。 同志等には再會を約して東京をさして急いだ。 同志等には再會を約して東京をさして急いだ。 日本樂産生活を營みながら、自ら人力で機械を運轉して宣傳用の雑誌やパンフレツトを盛んに印刷してゐた。しばらく自由な樂産生活を營みながら、自ら人力で機械を運轉して宣傳用の雜誌やデスので支那ので大声で、『平民新聞』を發刊して花々しく戦闘を開始する』と言いがあた。そして秘密出版所で共産生活を營みながら、自ら人力で機械を運轉して宣傳用の雑誌やパンフレットを盛んに印刷して東京をさして急いだ。

どり、再び社會主義横町へたどり付いた。外手間どつて、平民新聞の三號が出た頃にやうやく東京へも外手間どつて、平民新聞の三號が出た頃にやうやく東京へも

各自の感想や氣焰を揚げることになつたが、大杉は大いにアナキズムの理論を高調した。そこへ集る中では僕が一等年少たが仲々きかないで、安成貞雄を煽動して日本古代史のスツたが仲々きかないで、安成貞雄を煽動して日本古代史のスツたが仲々きかないで、安成貞雄を煽動して日本古代史のスツたが仲々きかないで、安成貞雄を煽動して日本古代史のスツル拔き一席を强請した事もあつた。
その頃は未だ堺利彦なんかにも講演をたのんだりして、ノンキな時代であつた。然し僕等アナキストの仲間は、ソシアリストがまだ幸徳事件におびえてゐる時に、もう毎月『平民リストがまだ幸徳事件におびえてゐる時に、もう毎月『平民リストがまだ幸徳事件におびえてゐる時に、もう毎月『平民リストがまだ雰囲音を表情である時に、もう毎月『平民リストがまだ幸徳事件におびえてゐる時に、もう毎月『平民リストがまだ幸徳事件におびえてゐる時に、もう毎月『平民リストがまだなる。然し、大杉は大いにア

サンドウヰツチ行列

持つて皆んなでサンドウキッチ行列をやつて示威運動を起さ就といふので無事であつた。で、大杉が、此の無事な四號をんで來て目の前で版をこわさせた。たゞ四號だけは全面轉載を平民新聞は大正二年の秋から出たのであるが、毎號禁止つ

日本橋の食

--- 36 ----

がしれた。と大書して體の前後にブラ下げた。同勢十幾中沒收せらる、と大書して體の前後にブラ下げた。同勢十幾中沒收せらる、と大書して體の前後にブラ下げた。同勢十幾別。當時銀座で俥夫をしてるた酒のみでバッコスの異名ある人、常時銀座で俥夫をしてるた酒のみでバッコスの異名ある人、常時銀座で俥夫をしてるた酒のみでバッコスの異名あるり、常時銀座で車大をとなったりして、本郷を廻つて夕方野澤重吉老までも加つて賑かに繰出した。途中平民新聞の四野津重吉老までも加つて賑かに繰出した。途中平民新聞の四野津は出來ないね』と笑つて言つた。僕にはその額が彷彿と目に見えるやうだ。

ぎで傳授してくれて、大杉が見張つてゐる間に一目散に戶山管で傳授してくれて、大杉が見張つてゐる間に一目散に戶山祭上號を苦心して隱くした場所から持ち出して方々の工場の禁止號を苦心して隱くした場所から持ち出して方々の工場の大口で撒いた。警察では八方に網を張つたが大丈夫だつた。十日目に荒畑の家へこつそりと行つて見ると、大杉がやつて大口で撒いた。警察では八方に網を張つたが大丈夫だつた。 大口で撒いた。警察では八方に網を張つたが大丈夫だつた。 大口で撒いた。警察では八方に網を張つたが大丈夫だつた。 大口で撒いた。警察では八方に網を張つたが大丈夫だつた。 大口で撮いた。警察では八方に網を張つたが大丈夫だつた。 大口で大力で、其上に裁判所や監獄での被告術奥儀をも大急 で傳授してくれて、大杉が見張つてゐる間に一目散に戸山

果、この擧は僕等の職業を奪つた復讐として棒引になつた。ケ原へ逃込んだ。二三日後に捕つたが、特高課長と激論の結

平民俱樂部

水石川水道端に、二階建の大きな家でサンマを燒くのに都のでは宮島資夫夫婦と僕と相坂が住んで、僕は神樂坂で古本のには宮島資夫夫婦と僕と相坂が住んで、僕は神樂坂で古本のには宮島資夫婦と僕と相坂が住んで、僕は神樂坂で古本のでは宮島資夫婦と僕と相坂が住んで、僕は神樂坂で古本のである。そこを平民俱樂部と名を店を出した。

に子民俱樂部は閉じて了つた。そして大杉がその近所に轉竟に平民俱樂部は閉じて了つた。そして大杉がその近所に轉って、矢張りフランス語を教へながら毎月二囘づゝの 生してなまい、毎日向ひの家に張り込むスパイを二人宛連れ に食容となり、また近代思想をも續けて行つた。僕は大杉の家 生してなまいて歸るのが日課だつた。まだ早稻田の學生だつ た近藤憲二君がその頃から集合に來て居つた。 洗畑はも5殆 た近藤憲二君がその頃から集合に來て居つた。 洗畑はも5殆 た近藤憲二君がその頃から集合に來て居つた。 洗畑はも5殆 た近藤憲二君がその頃から集合に來て居つた。 洗畑はも5殆 た近藤憲二君がその頃から集合に來て居つた。 洗畑はも5殆 に含ないやらになり、大杉は無政府主義の講演を續け た近藤憲二君がその頃から集合に來て居つた。 洗畑はも5殆 に含ないやらになり、大杉は無政府主義の講演を續け

で話すのは止さうよ』と、案外折れて來たので、引分けになつで話すのは止さうよ』と、案外折れて來たので、引分けになつ本返上した。すると『まあそんな事は表から聞えるやうな所を返上した。すると『まあそんな事は表から聞えるやうな所を返上した。すると『まあそんな事は表から聞えるやうな所を返上した。すると『まあそんな事は表から聞えるやうな所を返上した。すると『まあそんな事は表から聞えるやうな所を返上した。すると『まあそんな事は表から聞えるやうな所を返上した。すると『まあそんな事は表から聞えるやうな所を話すのは止さうよ』と、案外折れて來たので、引分けになって話すのは止さうよ』と、案外折れて來たので、引分けになって話すのは止さうよ』と、案外折れて來たので、引分けになって話すのは止さうよ』と、案外折れて來たので、引分けになって話すのは止さうよ』と、案外折れて來たので、引分けになって話すのは止さうよ』と、案外折れて來たので、引分けになって話すのは止さうよ』と、案外折れて來たので、引分けになって話すのは止さうよ』と、案外折れて來たので、引分けになった。

72

れに先方だつて處女ぢやないんだから君一人が責任を負ふこ て悔いてゐるんだから決して結婚なんかしない方がい」。そ 積りはない』と云ふと、『そんならいゝが、實際僕も今になつ こそは面喰つたが、すぐ氣を取り直して『ナニ決してそんな がほんとに君は結婚する積りなのか』と尋ねられて、その時 る日杉が僕を洋食屋へ伴れて行つて、一一寸そんな話を聞いた たすから、餘程考へなくてはならないといふ様な事を云つた。 付けて真面目になつて僕に忠告した。テロもたしかに有效な を付けるのでやめてしまつた。いよいよ面白くないから僕は 分覺醒してゐない時代には却つてその發達に有害な結果を來 手段ではあるが、幸徳の例もあるやうに一般思想界がまだ充 ピストルや短刀をひねくつて樂しんでゐると、それを杉が見 文の雑誌を出す計畫をしたが、文章がまづいとか何とかケチ スペラントの天狗連と一所にリベラント(叛逆者)といふエス て來て、僕も大ぶやけ糞になつてゐた。相坂や百瀬んかエ さんはプンプンしてゐるし、何が何だか僕には分らなくなつ その内に雑誌はやめてしまひ、杉の擧動も變だし、 變り易い僕は、又今度は或る女の問題で惱んでゐると、或

その時にはじめてそう決心が付いたのだつた。 とはないんだから』と親切に言つてくれた。僕もその質は、 のま」で驅け付けた。 イフの着物を近所の質屋に叩き込んで汽車賃を作り、仕事着

その後間もなく、杉は逗子へ引越すと言ひ出した。もう雑志も出ないし僕もいつまでも遊んでゐられないので、十二月の末に逗子に引越すとすぐ大杉のところを出て又昔しの日本エスペラント協會の書記に入つて半年ほどあたが、どうも面白くない。そこで堺利彦の紹介で國家社會主義乗支那革命顧白くない。そこで堺利彦の紹介で國家社會主義乗支那革命顧白で飯を食つてゐる北一輝の所へころげ込んだ。此處で又半年ほど食ひつぶしたが、その間、杉が神樂坂でフランス語の年ほど食ひつぶしたが、その間、杉が神樂坂でフランス語の子のサロメのやうな赤い唇と大きな目を見るのも不氣味たので、あまり行かなくなつた。後ちにスパイと知れた有吉三吉なんかは、若い同志と語らつて十二階下を荒して歩いてゐてなんかは、若い同志と語らつて十二階下を荒して歩いてゐてなんかは、若い同志と語らつて十二階下を荒して歩いてゐてなんかは、若い同志と語らつて十二階下を荒して歩いてゐてなんかは、若い同志と語らつて十二階下を荒して歩いてゐてない、大久保の製針工場で働いてゐた。

醛の茶屋で神近の爲に刺し殺されたといふのだ。僕は早速ワするとその年の暮になつて、或る夕方號外が出て大杉が日

葉山事件

小石川時代から杉の神近に對する態度がイャに馴れ馴れしいとは思つてゐたが、誰も僕にはそんな事を話さないのでちのとも知らなかつた。又、野枝さんに對する杉の公開狀のやうなものもあつたがよく讀んでも見なかつたし、野枝といふ人にも逢つた事もたかつたので、此の事件は全く僕には耳を外にも逢つた事もたかつたので、此の事件は全く僕には耳を

怒つてゐるし、宮島君は『神近は僕のワイフの古い友達だかゐるそばに宮島資夫君が切齒扼腕してゐた。杉の負傷は大しゐるそばに宮島資夫君が切齒扼腕してゐた。杉の負傷は大したこともなくて、野枝さんが看護して病院へ行つたところだたこともなくて、野枝さんが看護して病院へ行つたところだたこともなくて、野枝さんが看護して病院へ行つたところだをしるといつても嘯いてゐるなんていまいました』と言つてをしろといつても嘯いてゐるなんで見ると、堀保子が泣いて寒い夜、逗子の日蔭茶屋に行つて見ると、堀保子が泣いて寒い夜、逗子の日蔭茶屋に行つて見ると、堀保子が泣いて寒い夜、逗子の日蔭茶屋に行つて見ると、堀保子が泣いて寒い夜、

らよく知つてゐるが、神近がこんな事をしたのは皆な野枝がらよく知つて二人で贅澤をするなんてフトい奴だ』と憤慨してゐを取つて二人で贅澤をするなんてフトい奴だ』と憤慨してゐを取つて二人で贅澤をするなんてフトい奴だ』と憤慨してゐを取つて二人で贅澤をするなんでヲトい奴だ』と憤慨してゐる。僕にはサッパリ眞相が分らないから高見の見物をする外を取つてゐるが、神近がこんな事をしたのは皆な野枝がらよく知つてゐるが、神近がこんな事をしたのは皆な野枝が

れてゐた。
れてゐた。
もう神近は前夜の內に橫濱監獄へ送らら僕も行つて見たが、もう神近は前夜の內に橫濱監獄へ送ら

それつ切り杉に逢はなかつたが、その年が暮れて翌年の正それつ切り杉に逢はなかつたが、その年が暮れて翌年の正常してで際は出來ないだけなんです」と云つたから、僕は野神して交際は出來ないだけなんです」と云つたから、僕は子れじや謝罪したら貴女は愉快になるんですか』と尋ねて見が今もし謝罪したら貴女は愉快になるんですか』と尋ねて見が今もし謝罪したら貴女は愉快になるんですか』と尋ねて見たら、『イヤ、そんな事はありませんが、あやまらなければ今たら、『イヤ、そんな事はありませんが、あやまらなければ今たら、『イヤ、そんな事はありませんが、あやまらなければ今後安神して交際は出來ないだけなんです」と云つたから、僕は『それじや謝罪らない』と言つて歸つてしまつた。そのまだにも會はず僕は郷里へ歸つてしまつた。

木屋町待合の一夜

處へ尋ねて來た。しかし僕が不在だつたので、京都の某が案んと九州へ旅行しての歸途大阪でスパイをまいて一人で僕の大正七年の夏、陽四地方が米暴動の眞最中に、杉は野枝さ

30 ---

もいつまでも惰眠を貪つてゐる時ではないと深く感じた。といつまでも惰眠を貪つてゐる時ではないと深く感じた。その頃の關西の連中は全くロクな奴は居後待してくれるが、運動上には、殆んど、援助しないのは、不思議後待してくれるが、運動上には、殆んど、援助しないのは、不思議をかった。杉を犒ふのに酒池肉林を以つてする以上に智慧のなかつた。杉を犒ふのに酒池肉林を以つてする以上に智慧のない馬鹿者ばかりであつた。その夜東京の形勢を聞いて、僕が行ったい馬鹿者ばかりであつた。その夜東京の形勢を聞いて、僕が行ったい馬鹿者ばかりであつた。その夜東京の形勢を聞いて、僕が行ったい馬鹿者ばかりであつた。その夜東京の形勢を聞いて、僕が行ったいのまでも惰眠を貪つてゐる時ではないと深く感じた。

を取り、 だは大阪へ引返へす電車賃すらもなかつたが平氣なもので、次の夜は大阪で盛んに暴動に加勢して置いてフィともので、次の夜は大阪で盛んに暴動に加勢して置いてフィと東京へ歸つてしまつた。そのあと警察は大騒ぎで、業々しく東京へ歸つてと思つて『大杉は今度の米騒動は何日頃に終結らかつてやれと思つて『大杉は今度の米騒動は何日頃に終結らかつてやれと思つて『大杉は今度の米騒動は何日頃に終結がるだらう、それから僕が東京へ歸るとすぐ東京から檢事があると言ったやうに言つてやつたら。『大杉は中々先見の明があると言つて感心しやがつた。

それから警察が搜索してやつと大杉の泊つた待合をカギ出した。待合へ行つてスパイが其の夜の事を尋ねると、可愛いめにつくしはつた高杉はんかて泊らはつたのどつせ、今度は世界中の人のためにつくしてやはる大杉はんが泊つとくれやめにつくしはつた高杉はんかて泊らはつたのどつせ、今度は世界中の人のためにつくしてやはる大杉はんが泊つとくれやしたのは、名譽やとおもて まんのどつせ、大きにごせわはしたのは、名譽やとおもて まんのどつせ、大きにごせわはしたのは、名譽やとおもて まんのどつせ、大きにごせわはしたのは、名譽やとおもて まんのどつが、大杉はんが泊つとくれやしたのは、名譽やとおもて まんのどうだ。

彼の半面

「春四月縊り残され花に舞ふ」

言つてゐられる閑日月があつたのは、杉の英雄的な一面であ言つてゐられる閑日月があつたのは、杉の英雄的な一面であとなつたに相違ない。しかもその當時に、こんな獨り言でもとなつたに相違ない。しかもその當時に、こんな獨り言でも記憶を刻みつけ、今度彼れが最後を全うしたまでの大きな力配信を刻みつけ、今度彼れが最後を全うした。杉が赤族事件で入

Δ

い有様だつたが、杉はワツハ、、、と大笑一番したさうだ。赤旗事件の公判の時なんかも、他の同志は皆な悲憤極りな

でとの反映であつたのであらう。 何時殺されるか知れない彼にとつては、その强い決心を持つつたこともあつたが、彼れ自身でも言つてゐたやうに、いつ 登澤な生活をするのは杉の癖だつた。僕は屢々不愉快に思

٨

らキリまで組織づくめ理論一點張りで杓子定規にやらうとしてゐたのと全く同じで、ボルセギキや國家主義者がピンか作つて居なかつた。バクウニンが無定形主義を運動の原則と彼れは何か運動を始める頃に、いつも決して始終の順序を

から學んだ僕等は幸福だつた。て紀えず失敗の跡を蔽ふのに忙しいのとは根本から相遠して

^

大杉は或時はロシャ人くさい『オスキー』といふ名を使って、以前オランダで發行されてゐたソッイア・レヴーオといるエスペラント雑誌に論文を書いた事があつた。また東京に居た支那の同志を集めてエスペラントを教へ、『衡報』といふを那語とエス文との雑誌にエス文の寄稿をした事もあつた。日本のエスペランチスト中では最も初期の開拓者の一人だつたが、赤旗事件以來はその方面のいとまもなかつた爲め、平たが、赤旗事件以來はその方面のいとまもなかつた爲め、平たが、赤旗事件以來はその方面のいとまもなかった爲め、平たが、赤旗事件以來はその方面のいとまもなかった爲め、平

フランス渡航の苦心ご彼の死

前借をしてやつとギリギリの旅費と留守中の費用とを作つてト大會の招待が來た。彼れは急いで方々の本屋から原稿料のス渡航の話しはやや詳しく聞いた。昨年の秋、杉にアナキスいた位で、近來あまり杉に會ふ機會もなかつた。が、フランは出獄して始めて杉が『勞働運動』をやつてゐる事を聞

『國士』だの、『國家の干城」だのといふものはそんなものか。 馬鹿な奴等だ。 つけて來たのだ。今頃大杉や野枝を殺したとて此の全世界に て東洋のアナキストの爲に氣を吐き、世界的大運動の端緒を 憚り乍ら我が大杉は、陰影なんかに左右されるやうなアャツ 亘る無政府主義運動の大勢をどう阻止し得やうと思ふのだ。 リ人形ぢやない。彼はあらゆる苦心をしてヨーロッパ迄渡つ だらう。土偶共は今は法廷で罪のなすり合ひをやつてゐる。 といふ人形師に使はれる傀儡だから、他人も同じだと思ふの 悪夢の名残りでもあつたんだらう。憲兵なんてものは、上官 る『愛國の至誠』とかいふケチな思想にかぶれてウナされた、 大なる陰影」などと寝言を言つてゐるが、それは偏狹な謂ゆ での間の苦心は、質に筆紙に盡せるものではなかつたさうだ。 の汽船アンドレルボンの三等船客として上海から乘船するま れ唐機といふ名で廣東生れの留學生に成り澄して、フランス 大急ぎで日本を出て支那へ行つた。其所で旅行発狀を手に入 大杉を虐殺した憲兵甘粕は、法廷で『大杉の背後にある巨

が悉く組織的暴力であつた事は知れ渡つてゐるのだ。これは今度の虐殺事件の眞相を我々の爭で調べ上げた結果、それ

さういつまで我慢してゐるものぢやないんだ。
やしんだつてもう及ぶものではないのだ。日本といふ井の中やしんだつてもう及ぶものではないのだ。日本といふ井の中から出る事の出來ない國家主義者の蛙共には人類の趨向は分て個人と民族との闘爭が絕えないやうな兇悪極まる生活にはて個人と民族との闘爭が絕えないやうな兇悪極まる生活にはて個人と民族との闘爭が絕えないやうな兇悪極まる生活にはないつまで我慢してゐるものぢやないんだ。

一度び幼年學校にまで入つたが、その非を悟つて決然として人類の平和幸福のために革命運動に投じた大杉榮君の經歷で人類の平和幸福のために革命運動に投じた大杉榮君の經歷校れの盡し來つた社會革命の大業は愈々進捗の速度を加へ、彼れの奉じた無政府共產主義は益々榮えて全地球に蔓延しつつあるのだ。

に鷹進すべきである。く、重任を負ふ我等は更に熱烈なる宣傳と一層勇敢なる戰闘く、重任を負ふ我等は更に熱烈なる宣傳と一層勇敢なる戰闘されを以つて同志大杉榮、伊藤野枝兩君は安らかに瞑すべ